

< 宮崎の地名について調べる >

地名にはその土地の歴史、文化、生活などと深い結びつきがあるものも多く見受けられます。地方によっては古くは荘園名として有名なものや城下町が起源のものなどもあります。地名を調べていくとその土地についてのより広く、より深い知識を得ることができます。宮崎の地名を調べたい時に参考になりそうな資料をご紹介します。

宮崎の地名について調べるには？



☆地名について調べたい場合には、宮崎県立図書館のホームページや館内の検索機でキーワード検索をすることができます。

(例)「日南■地名」など ※■はスペースです。

☆検索や調査のヒントになるキーワードをいくつか組み合わせたり、調べたい地域と組み合わせたりして検索してみましょう。

≪キーワード例≫

地名/旧国名/都道府県名/市町村名/字名/市町村合併/地誌/〇〇市史/史跡/藩宮崎県/日向(ひゅうが・ひむか)/由来 など

1 参考図書でしらべる～基本的な情報を得る資料～

資料名・内容	請求記号 (ラベル)
『角川日本地名大辞典 45 宮崎県』 「角川日本地名大辞典」編纂委員会／編 宮崎県 1986 地名編と地誌編の索引で調べられます。資料編には、国郡、藩県、市町村の沿革、県年中行事があり、巻末には主要遺跡、主要城郭、参考地図として主要遺跡分布図、交通図などがあります。p16の難読地名索引で読みづらい地名を探することができます。	参考調査・ 郷土資料 2910/163-45
『日本歴史地名大系 46 宮崎県の地名』 平凡社地方資料センター／編集 平凡社 1997 日向国五郡(*1)、街道、各市町村の地名について調べることができ、難読地名は巻末の50音順の地名索引から探せます。巻末に「行政区画変遷・石高一覧」、付録に明治初期における日本の代表的な地図の一つ「輯製(しゅうせい)二十万分ノ一図復刻版」宮崎県全図があります。	百科事典 2910/669/46

<p>『宮崎県大百科事典』 宮崎日日新聞社／編 宮崎日日新聞社 1983</p> <p>昭和58(1983)年の置県100周年にあたり地元の新聞社より刊行された宮崎県に関する百科事典です。収録されている事象は政治、社会、産業経済など6500項目、資料、写真、図版、表は約2000点掲載されています。巻末資料として日向国・宮崎県の歴史年表、地名集覧などがあります。</p>	<p>百科事典・ 郷土資料・ 児童R 031/20</p>
<p>『近代地名研究資料集 第4巻 大日本市町村案内』</p> <p>池田末則／編・解説 クレス出版 2005</p> <p>昭和11年(1936)年11月現在の全市町村別で歴史・地誌・民族・文学・名所旧跡・名物などを網羅して記載されています。旧国名の地名研究資料として樺太・臺灣・關東州・挑戦・南陽・満州国についての記載がある点が特徴的です。p1055～1065に宮崎についての記載があります。</p>	<p>参考調査 2910/1292-4</p>
<p>『日本地名大事典 上・下』 吉田茂樹／著 新人物往来社 2004</p> <p>上下巻、50音順の索引で現在の都道府県名、市町村名の歴史上の呼び名や語意についての記載があります。それぞれの所在地、地名の初見時代(飛鳥期、鎌倉前期、戦国末期など)と初見年の記述があります。</p>	<p>参考調査 2910/1276-1 1276-2</p>
<p>『日本古代史地名事典』</p> <p>加藤謙吉・関和彦・遠山美都男・仁藤敦史・前之園亮一／編 雄山閣 2007</p> <p>『和名抄』(*3)の国郡別による地名配列に準拠して編集されています。郡の語義、由来については『延喜式』『太宰管内志』『日向国史』などの記載をもとにした解説があります。p897～905に西海道、日向国の呼称とその変遷についての記載があります。</p>	<p>参考調査 2910/1413</p>



地名の読み仮名が先に分かっている場合に参考になる資料をいくつか紹介します。

<p>『古代地名語源辞典』</p> <p>楠原佑介・桜井澄夫・柴田利雄・溝手理太郎／編著 東京堂出版 1981</p> <p>『和名抄』(*3)に記録のある国郡郷名を中心とした50音順索引で地名を調べられます。日向国(臼杵郡、児湯郡、那珂郡、宮崎郡、諸県郡)についての記載があります。例えば、飢肥(おび)、財部(たからべ)などの読みが分かれば探しやすいです。</p>	<p>参考調査 2910/159</p>
<p>『歴史と文化を探る日本地名ルーツ辞典』</p> <p>池田末則・丹羽基二／監修 創拓社 1992</p> <p>各都道府県別に主要な地名について、その語源と由来、文献の初出、歴史・地理的変遷などについて解説し、県ごとの代表的な地名を取り上げた縮刷版です。p950～978に宮崎に関する記載があります。</p>	<p>参考調査 2910/679</p>
<p>『地名でたどる郷土の歴史 地方史誌にとりあげられた地名文献目録』</p> <p>飯澤文夫／監修 日外アソシエーツ 2017</p> <p>日本各地で発行されている地方史研究雑誌などに掲載された地名に関する論文・記事を地名で集約した文献索引の目録です。p1027～1036に宮崎に関する記載があります。</p>	<p>参考調査 2910/1703</p>

<p>『日本地名大百科 ランドジャポニカ』 浮田典良・中村和郎・高橋伸夫／慣習 小学館 1996 平成 8(1996)年時点での県の地図、位置、面積、地名の由来、市町村沿革、歴史風土、 県民性、歴史風土、伝統産業、指定文化財、県の略年表(旧石器時代から平成5 (1993)年まで)などの説明があります。p1116~1120に宮崎市・宮崎県についての記 載があります。</p>	<p>参考調査 2910/868</p>
<p>『NTC日本地名分類法 西日本篇』 谷川健一／監修 日本地名研究所 2005 国名、郡名、村名および字名の順序で探することができます。日向国、宮崎郡、天保郷帳村 名、明治22(1889)年を境にした村名、それ以降の市町村名が掲載されています。 p1456~1467に宮崎に関する記載があります。</p>	<p>参考調査 2910/1343/ ニシホソハ</p>

*1:日向国五郡とは、宮崎郡・那珂郡・児湯郡・諸県郡・臼杵郡のこと。

明治6(1873)年に宮崎県が設置され、宮崎・那珂・児湯・諸県・臼杵の五郡から構成された。

参考文献:『宮崎県の地名』p33総論参照

*2:日向国七郡とは、臼杵郡・児湯郡・宮崎郡・南那珂郡・東諸県郡・北諸県郡・西諸県郡のこと。

参考文献:『増補大日本地名辞書 第4巻』目次およびp492~541参照

*3:和名抄(わみょうしょう)、または「和名類聚抄」「倭名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)」、「倭名抄」(わみょうしょう)ともいう。平安時代前期の承平年間(931-938)年ごろ、源順(みなものしたごう)によって編纂されたと伝えられる分類体漢和対照辞典であり、10巻または20巻からなる。約2600の漢語を分類し、その文例・語釈を漢籍から引用し、割注で字音と和訓を示す。

参考文献:『日本大百科全書 24 りさ〜ん』p825参照



参考調査、百科事典、児童 R の資料は館内閲覧用です。

2 本で調べる

資料名・内容	請求記号 (ラベル)
<p>『日向地誌 復刻版』 平部嶠南／著 青潮社 1976 江戸・明治期の政治家であり、飢肥藩の家老でもあった平部嶠南(ひらべきょうなん)によ る『日向地誌』を復刻したものです。宮崎五郡(宮崎郡、那珂郡、児湯郡、臼杵郡、諸懸郡) に分けて地理的位置、距離、人口、川、港、道路などの沿革について書かれています。</p>	<p>郷土資料 2919/46/7 ヲ</p>
<p>『宮崎市街字町名誌 地名にみる原風景』 田代学／著 江南書房 1998 宮崎市の字、町名について自然史の観点から詳細な歴史的考察が書かれています。図・ 表・写真が豊富に掲載されています。</p>	<p>郷土資料 219642/46</p>
<p>『平成の大合併 県別市町村名事典』 浅井建爾／著 東京堂出版 2006 平成12(2000)年4月の地方分権一括法の施行以来行われた「平成の大合併」の際に 合併・消滅した市町村名について書かれています。p309~314に宮崎に関する記載があり ます。</p>	<p>部門別 2910/1370</p>

『日本全国奇妙な県境・市町村境の事典』 浅井建爾／著 東京堂出版 2023 全国各地にある県境や市町村境、飛び地などについて、なぜそのような境が出来たのか書かれています。p100～103に宮崎に関する記載があります。	部門別 2910/1813
『福岡・九州の災害地名 語源と地形から読み解く警告』 池田善朗／著 忘羊社 2022 これまで歴史的に災害に遭った場所の地名、その語源や地形について書かれています。主に福岡について書かれていますが、p161～166に宮崎に関する記載があります。	部門別 2919/1307
『消えた都道府県名の謎』 八幡和郎／著 イースト・プレス 2016 明治4(1871)年の廃藩置県以降、県庁所在地が変更になった県名の由来、47都道府県になった理由などについて書かれています。p196～199に宮崎に関する記載があります。	新書 291/514
『綾町地名の謎解き』 柳田康博／著 鉦脈社 2020 東諸県郡綾町の地理と歴史、地名についての由来・語意について書かれています。読みづらい地名にはルビが付いていて分かりやすいです。	郷土資料 2919/1270
『高知尾の名字 姓氏の由来にみる西白杵の歴史をたどる I』 安在一夫／著 鉦脈社 2023 JA高千穂地区広報誌「かるめぐ」に連載されていた『西白杵の姓氏』を改稿し、発刊されたものです。姓氏の由来、時代背景などの詳細な解説があり、家系図、系譜、カラー写真なども参考になります。	郷土資料 2881/147/1

3 Web サイトで調べる

サイト等名・内容	URL
『宮崎県-地名項目一覧』『日本歴史地名大系』地名項目データセット』 (人文学オープンデータ共同利用センター) 表示された地名を選択すると地名の読み、緯度経度、歴史地名、ジャパンナレッジ版『日本歴史地名体系』の地形図が表示されます。一部、表示されない地名もあります。	https://geoshape.ex.nii.ac.jp/nrct/resource/46/
『市町村変更情報』(国土地理協会) 市町村変更に伴う合併情報、変更情報を提供しており、地理、人口統計データと各種の地図を市町村変更情報から過去の変更情報などが閲覧可能です。	https://www.kokudo.or.jp/marge/tdfk.php?tdfk_cd=45
『HINATA GIS (地理情報システムひなた GIS)』(宮崎県) 国土地理院の地図や空中写真、産業総研のシームレス地質図、航空写真などの基盤地図上に地理情報を重ねて可視化することができるweb上の地図です。場所によっては古地図と現在の地図を重ねることができます。	https://hgis.pref.miyazaki.lg.jp/hinata/